

クリアランス制度に対する理解度の調査と理解促進方策の検討 大学生を対象としたアンケートに基づく検討

Survey of Recognition Degree of Clearance System and Consideration of Promotion Methods

Study on Questionnaire Survey with College Students

*西村 健秀¹, 西野 将平¹, 園部 暢之¹, 川崎 大介¹

¹福井大学

クリアランス制度に対する社会の理解促進のために有効な方法を抽出するために、クリアランス制度の認知度や理解度、賛否や懸念事項などについて、大学生を対象としたアンケート調査を行った。アンケート結果の分析に基づき、求められる理解促進の内容や、有効な理解促進方策について検討した。

キーワード: クリアランス, 理解促進, アンケート調査

1. 緒言 原子力施設の廃止措置では、放射能濃度が極めて低く、放射性物質として扱う必要のない金属やコンクリート等のクリアランス物も発生する。資源の有効利用の観点からクリアランス物を再利用していくことは重要である。クリアランス物を市場に流通させるに当たってはクリアランス制度に対する国民の間で誤解や風評が生じないように、理解を広めることが必要とされている[1]。しかし、何をどの程度理解することが必要なのか、明らかではない。本検討では、国民の理解促進に向けて、何をどの程度理解していただく必要があるのかを明らかにするためにアンケート調査を行い、クリアランス制度の理解促進に効果的な方法を抽出することを目的とする。

2. 検討方法 クリアランス物の再利用の現状について調査を行い、アンケートで明らかにすべき項目（クリアランス制度に関する知識と現状の理解度、クリアランス物の一般市場への流通についての賛否の意見、その判断基準、クリアランス制度について知ろうとする場合の情報源等）を抽出した。これをもとにアンケート設問を作成し、福井大学の大学生 82 名を対象にアンケート調査を実施した。アンケートの回答を集計し、知識や理解度、賛否意見に基づき回答者を分け、理解を深めるために重要な条件をそれぞれ抽出した。

3. 結果 82名のアンケート回答者のうち 51名が「クリアランス制度」という言葉を聞いたことがなく、賛否の意見を持っていないことも想定されたが、簡潔な説明文に基づき 57名が賛否意見を答え、18名が「賛成・反対のどちらとも言えない」と答えた。判断基準として重要なのは上位から、安全性、環境保護・資源の有効利用、経済性、イメージであった。クリアランス制度についての情報源としては、大学で知識を得たいという意見が最も多く、次いでマスメディアやインターネットが挙げられた。また、安全性については、自分で理解して納得することが必要という意見をもつ学生が 56名いた。

4. 結論 福井大学の大学生 82 名を対象にアンケート調査を実施した結果、安全性に関して自分で理解して納得するまで知りたいという意見が多数であった。そのためには、大学教授や専門家が安全性について説明することが有効であると示唆された。

謝辞 本検討は一部「FAA 学ぶなら福井！応援事業」の援助を受けて福井大学大学院工学研究科で実施したプロジェクト型学習科目の成果である。

参考文献 [1] 第 162 回国会衆議院国土交通委員会第 13 号附帯決議, 平成 17 年 4 月 22 日.

*Takehide Nishimura¹, Shohei Nishino¹, Nobuyuki Sonobe¹ and Daisuke Kawasaki¹

¹Univ. Fukui